

無駄な作業を減らして本業に集中!

経費精算をIT化することで コスト削減と業務効率化を実現

経費削減は企業にとって永遠のテーマと叫ばれるなか、近年では経費精算業務をIT化することによる、コスト削減に関心が集まっている。従来の経費精算方法は、生産性のない作業でありながら時間がかかり、会社全体で見ると、そのコストは膨大になるからだ。今回は、IT化による効果や、その実績について、株式会社ラクス代表取締役 中村崇則氏に聞いた。

注目される 経費精算のIT化

企業にとって、経費の精算に費やす時間や労力は大きな負担となっている。たとえば交通費精算を紙やExcelで行う場合、一件ずつ費用を調べ、所定の書式に記入し、プリントアウトして上司に申請する。この作業だけで相当の時間がかかることは経験者なら誰しも感じているだろう。さらに上司はこれをチェック、承認して用紙を経理に回し、経理はその申請内容をさらにチェック、集計し、仕訳、会計ソフトなどへ手作業で入力しなければならない。これは会社全体で見ると、驚くべき時間と労力の無駄になっている。

「最近では多くの企業が、経費精算のIT化による効率化に取り組み始めています」。こう話すのは、数多くの企業に

ITサービスを提供、業務効率化を成功させてきた株式会社ラクスの中村社長だ。「2013年に当社が経理担当者800名を対象に実施した調査では、経費精算をIT化した企業は全体の約3割でした。2012年の調査では約2割だったので1.5倍の伸びを示しています。とはいえ、まだ多くの企業が紙やExcelなどを使った精算に頼っている状態です」。

費用対効果の大きい 『楽楽精算』

経費精算のIT化において、高い評価を受けているシステムが、ラクスの『楽楽精算』だ。2009年の発売開始以来、導入する企業は着実に増え、現在トップクラスのシェアを持つ(導入社数650社以上、利用者数は8万人以上)。

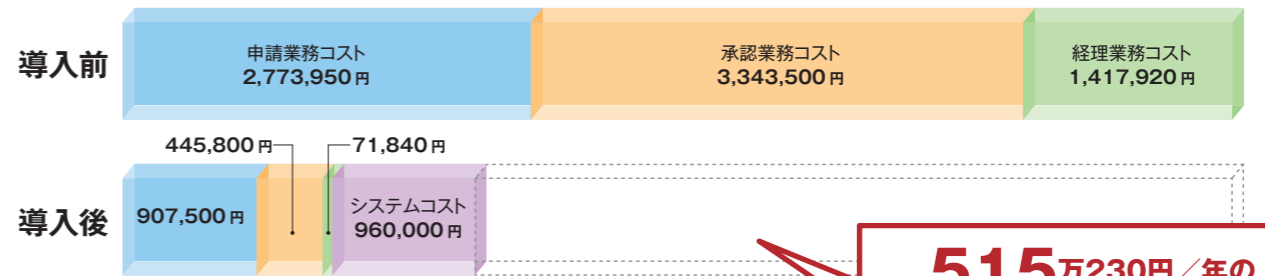
『楽楽精算』にはラクス自身が試行錯誤してきた経験が活かしている。

「かつては当社も手作業で経費精算業務を行っていましたが、会社が成長

し、従業員が増えるにつれ、経費精算の作業量も増えたため、経営課題の一つになっていました。そこで課題を解決するため自社で経費精算システムを開発しました」。これが『楽楽精算』の原型である。

一般に企業が経費精算をIT化する場合、『自社開発する』、『グループウェアやERPの機能を用いる』、『経費精算システムを入れる』などの手法が考えられる。しかし、『自社開発』は構築に膨大な費用と期間がかかるうえ、システムが古くなった際に、改修に再度費用と手間がかかる。また『グループウェア』は、経費精算がメイン機能ではないため、機能不足により利用メリットが得られず、結局『経費精算システム』を別に導入するケースが多く見受けられる。さらに、『ERP』も導入費用、ランニング費用共に高額であるうえ、対象業務が広く、経費精算の費用対効果が見えにくいというデメリットがある。そこで、望ましいのは『経費精算システ

「楽楽精算」導入前と導入後の試算比較(従業員300人の場合) ※株式会社ラクスが従業員300人時に試算した結果



**515万230円/年の
コスト削減効果**

ム』である。しかもクラウド型のシステムなら、初期導入コスト、ランニングコストともに低く抑えられ、必要時にのみ利用できることで運用費も軽減できる。実際に、『楽楽精算』導入による経費削減効果は高い。運用費だけでなく、これまで経費精算業務にかかっていた時間が短縮されることにより、業務コストが大幅に削減されるからだ。

「当社の場合、従業員数が100人を超えた頃、経費精算にかかっている時間をコスト換算すると年間313万円でしたが、『楽楽精算』導入によって108万円まで削減できました。社員が300人規模になった今、『楽楽精算』を導入していなかった場合の試算では、754万円にもなりますが、実際には239万円に留まっています。また、嬉しいことに『楽楽精算』を導入した企業から「毎月4日間かかっていた経費精算業務を数時間に短縮できた」「経理の振込み作業が3分の1に削減できた」「5人で経費精算を処理していたが2人

で可能になった」など、高い評価を頂いております」。

あらゆる部門、職位で 本業への集中を高める

『楽楽精算』は『乗換案内』を内蔵しているため、交通費を申請する際、運賃が自動計算される。交通系ICカードの利用履歴を読みこむ機能を搭載。またスマートフォンに対応しているので、移動中などでも経費精算が可能だ。さらに申請データは自動仕訳され、会計ソフトとも連携可能である。こうした機能もあって『楽楽精算』は、企業のあらゆる部門、職位の社員にメリットをもたらす。営業などの現場にとっては申請の手間がなくなり、上司など管理職はチェックや承認作業が効率化される。そして、経理部門の確認や入力作業も大幅に軽減される。

「このことは、社員が本業に集中しやすくなることを意味します。営業なら営業活動に、管理職なら戦略や企画の

立案に、また経理部門なら、経営数字の正確な算出・検証や財務・会計戦略に、重点的に力を注ぐことが可能になるはず。『楽楽精算』の費用削減効果は当社自身の実績から明白。しかし、それに留まらずに、社員を単純作業から解放し、本業への集中度を高めることで、企業の競争力強化にも貢献していると自負しています」。

さらに、ラクスでは『楽楽精算』以外にも、競争力強化を支援するツールを多彩に提供している。例えば、WEB帳票発行システム『楽楽明細』は、紙で郵送している請求書や納品書などの帳票を「電子化」させるシステムだ。郵送や印刷の費用だけでなく、手間も大幅に削減することができるため、本業への集中を更に高めることが可能だ。こちらも含めてチェックしておきたい。

「今後も数多くの企業が、ITを上手に活用して、競争力を高めていただくための支援が出来ればと思っています」。



株式会社ラクス 代表取締役 中村崇則氏

「楽楽精算」の導入により、すべての部署の作業効率が格段に上がる

<p>営業スタッフ 申請作業の効率化で 営業に集中</p>	<p>管理職 承認作業の効率化で 事業戦略に集中</p>	<p>経理スタッフ 経理作業の効率化で 財務戦略に集中</p>
--	---	--

WEB公開中! バカボン一家が教える、楽楽精算で経費精算がラクになるヒミツ!

営業さんも、部長さんも、経理さんも、
みんなの仕事をラクにするのだ!

「めんどろ」の反対は… 検索

赤塚不二夫 生誕80周年企画
天才バカボン
2015.5.23(SAT)公開
©赤塚不二夫/天才バカボン製作委員会